

[プレスリリース]

2025/1/24

手法は語る

イケムラレイコ、小林正人、高畠依子、戸谷成雄

ゲストアーティスト：安永正臣

2025年2月22日(土) – 4月5日(土)



安永正臣《溶ける器》2024, glaze, colored glaze, slip, copper, kaolin, 60x38x39cm

シュウゴアーツは、5人のアーティストによるグループショー「手法は語る」を開催します。

本展は、アーティストたちが素材の特性や制作手法に対する独自のこだわりを持ち、それによって作品がどのように個性的な表現を実現しているかに焦点を当てています。また、各アーティストが獲得した独自の手法が、彼らの多様なオリジナリティにどのように寄与しているかを示すことを目的としています。素材と手法に注目することで、観客の皆様に新たな美術史的視点や芸術的なインスピレーションを提供できることを期待しています。アーティストの多様なアプローチの背後にある「理由」に思いを馳せながら、作品鑑賞のひとときをお楽しみください。

2025年1月 シュウゴアーツ



高畠依子《CANVAS》2024, jute, glue, oil, pigment, panel, 58x109cm



戸谷成雄《森化 II》2003, wood, wood ashes, acrylic, 155x30x36cm(left), 155x32 x 38cm(right)

「手法は語る」展

イケムラレイコ、小林正人、高畠依子、戸谷成雄

ゲストアーティスト：安永正臣

会期：2025年2月22日(土) – 4月5日(土)

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：火～土曜 11:00–18:00 (日月祝休廊)

協力：Nonaka-Hill

安永正臣

1982年大阪府生まれ、三重県伊賀市を拠点に活動。大学在学中、前衛陶芸の作家集団「走泥社」の星野暁氏に師事し、創作の方向性を確立。安永正臣は、長石、ガラス、金属粉などを独自に組み合わせた原料を用いる。また粘度の高い釉薬で器を作りそれを砂の中で焼成するという手法を編み出し、制作を続ける。

主な個展に「石拾いからの発見」ノナカ・ヒル（ロサンゼルス、2023）、「In Holding Close」Jule Collins Smith Museum of Fine Art（オーバーン、アラバマ、2023）、「夢の交点」Palomar（イタリア、2022）、「遠くを見る」リッソン・ギャラリー（ニューヨーク、2022）、「Empty Landscape（空虚な風景）」リビー・レシュゴールド・ギャラリー（バンクーバー、2020）、「安永正臣」ノナカ・ヒル（ロサンゼルス、2019）、「オリエントの記憶」ギャラリーうつわノート（埼玉、2018）など。

イケムラレイコ

三重県津市生まれ。1970年代にスペインに渡り、イスを経て1980年代前半よりドイツを拠点に活動。1991–2015年ベルリン芸術大学教授。2014年より女子美術大学大学院客員教授。2019年芸術選奨文部科学大臣受賞。イケムラはペインティング、テラコッタ、ブロンズ、ガラス、写真、詩といった多様なメディアを用いて制作を続ける。絵画・彫刻ともに伝統的な素材を用い、高い精神性を含んだ作品が国内外から高い評価を受けている。独特の質感から放たれる形と色彩が人物、植物、地平線などが融合したイメージを作り出し、人と自然、そして宇宙との流動的な関係を宿している。

主な個展に「Leiko Ikemura. Light on the Horizon」Heredium Museum（韓国、2024）、「イケムラレイコ — 機知にとんだ魔女たち」Georg Kolbe Museum（ベルリン、2023）、「イケムラレイコ うさぎの年」Museo de Arte de Zapopan（メキシコ、2023）、「限りなく透明な」シュウゴアーツ（東京、2022）、「Toward New Seas イケムラレイコ 新しい海へ」バーゼル美術館（スイス、2019）、「Nordiska Akvarellmuseet」Skärhamn（スウェーデン、2019）、「土と星 Our Planet」国立新美術館（東京、2019）、「あの世のはてに」シュウゴアーツ（東京、2017）、「...und plötzlich dreht der Wind」Haus am Waldsee（ベルリン、2016）、「Poetics of Form」Nevada Museum of Art（アメリカ、2016）、「All About Girls and Tigers」ケルン市立東洋美術館（ドイツ、2015）、「PIOON」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡、2014）、「i-migration」カールスルーエ州立美術館（ドイツ、2013）、「Korekara oder die Heiterkeit des fragilen Seins」ベルリン国立美術館アジア美術館（ドイツ、2012）、「Mare e Monti」聖コロンバ教会ケルン大司教区美術館（ドイツ、2012）、「うつりゆくもの」

東京国立近代美術館 / 三重県立美術館（2011）など。

小林正人

1957年東京生まれ。1996年サンパウロビエンナーレ日本代表。1997年ヤン・フート氏に招かれ渡欧、以降ベルギー・ゲント市を拠点に各地で現地制作を行う。2006年に帰国、福山市・鞆の浦を拠点に活動。2017-2023年東京藝術大学教授。「存在することで少しも失墜しない絵画」を目指し、カンヴァスの布地を片手で支えながら擦り込むようにして色を載せ、同時に木枠に張りながら絵画を立ち上げていくという独自の手法を編み出した。その状況でしか生まれ得ない作品形態と独自の明るさをもつ絵画を生み出し続けている。

主な個展に「自由について」シュウゴアーツ（東京、2023）、「この星の家族」シュウゴアーツ（東京、2021）、「画家とモデル」シュウゴアーツ（東京、2019）、「ART TODAY 2012 弁明の絵画と小林正人」セゾン現代美術館（長野、2012）、「この星の絵の具」高梁市成羽美術館（岡山、2009）、「STARRY PAINT」テンスタコンストハーレ（スウェーデン、2004）、「A Son of Painting」S.M.A.K（ゲント、2001）、「小林正人展」宮城県美術館（宮城、2000）など。

高畠依子

1982年福岡県生まれ、東京都在住。2015年アニ・アルバースの研究のためレジデンスを行う（コネチカット州・ジョセフ&アニ・アルバース財団）。高畠は素材の物質的な現象を通して、絵画を平面的な捉え方から拡張させ、物理的な構造を持つ存在へと展開してきた。ラスコー洞窟壁画やナスカの地上絵などから世界の大きさを肌で感じつつ、素材との対話の中で生まれてくる作品は、イメージを描くことでは生まれることのない物質的空間を持ち、高畠の手によって生成された作品である。

主な個展に「LINE(N)」シュウゴアーツ（東京、2024）、「CAVE」シュウゴアーツ（東京、2022）、「MARS」Gana Art Nineone（ソウル、2022）、「MARS」シュウゴアーツ（東京、2020）、「VENUS」Gana Art Hannam（ソウル、2019）、「泉」シュウゴアーツ（東京、2018）、「水浴」シュウゴアーツ ウィークエンドギャラリー（東京、2016）、「Project N 58 高畠依子展」東京オペラシティアートギャラリー（東京、2014）など。主なグループ展に「ABSTRACTION 抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビズムから現代へ」アーティゾン美術館（東京、2023）、「FUJI TEXTILE WEEK 2021」富士吉田中心市街地ほか（山梨、2021）、「TRICK-DIMENSION」TOKYO FRONT LINE（東京、2013）、「アートアワードトーキョー丸の内 2013」（東京、2013）、「DANDANS at No Man's Land」旧フランス大使館（東京、2010）など。

戸谷成雄

1947年長野県生まれ。埼玉県在住。ポスト・ミニマリズムやもの派といった潮流の中で解体された彫刻の再構築を試みて、1970年代より一貫して人間の存在認識に通じる彫刻の原理とその構造を追求し、作品制作による実践によってその本質と可能性を提示し続けてきた。洞窟絵画、ギリシア・ローマ彫刻から現代に至る古今東西の芸術史観を自由に往来し、類い稀な彫刻論に裏付けされた作品群により、日本、アジア、パシフィックを代表する彫刻の第一人者と目されて久しい。2004年芸術推奨文化科学大臣賞、2009年紫綬褒章受章。武蔵野美術大学彫刻科名誉教授。

主な展覧会に「戸谷成雄 彫刻」長野県立美術館（長野、2022-2023）、埼玉県立近代美術館（埼玉、2023）、「視線体：散から連 連から積」シュウゴアーツ（東京、2022）、「戸谷成雄 森一湖：再生と記憶」市原湖畔美術館（千葉、2021）、「視線体」シュウゴアーツ（東京、2019）、「戸谷成雄—現れる彫刻」武蔵野美術大学 美術館・図書館（東京、2017）、「洞穴の記憶」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡、2011-2012）、「戸谷成雄 森の襞の行方」愛知県立美術館（愛知、2003）、光州ビエンナーレ＜アジア賞受賞＞（光州、2000）、「視線の森」広島市現代美術館（広島、1995）、「<山-森-村> 戸谷成雄」町立久万美術館（愛媛、1994）、「第1回アジア・パシフィックトリエンナーレ」クイーンズランド・アートギャラリー（ブリスベン、1993）、「第43回ヴェニスピエンナーレ」ジャルディーニ公園日本館（ヴェニス、1988）など。

シュウゴアーツ 展覧会担当：石井美奈子 プレス担当：藤田清（info@shugoarts.com）

106-0032 東京都港区六本木6 丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

email: info@shugoarts.com website: <https://shugoarts.com/>

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：<https://shugoarts.com/topics/>